

関東大震災から100年

～ 100年に1度の大地震は今年かもしれない ～



東京駅前の焼け跡、日本橋方面
(出典：気象庁HP)

今年、大正12年（1923年）に発生した関東大震災から100年の節目に当たります。

関東大震災は、発生日である9月1日が「防災の日」と定められているように、近代日本における災害対策の出発点となった未曾有の災害でした。

関東大震災から100年を迎える今年、改めて防災について考え、災害に備えてみませんか？



(左) 上野公園内 石灯籠の倒壊、(右) 国府津小田原間鉄道の状況 (出典：気象庁HP)

関東大震災は、9月1日午前11時58分、相模湾北西部を震源として発生した巨大地震で、マグニチュードは7.9と推定されています。埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測しました。

発生時刻が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が発生し、大規模な延焼火災に拡大しました。関東大震災により被害を受けた住家は、総計約37万棟にのぼり、死者・行方不明者は約10万5,000人に及びました。

狛江市（当時は狛江村）では・・・



金刀比羅宮へ震災被災者支援物資搬入記念写真(石井三雄家旧蔵)

村民の被害は、村外で死者2人、行方不明者1人、村内での人的被害はありませんでした。

被害が大きくなかった狛江村では、震災直後から支援活動を始め、9月9日から11日にかけて、寄付によって集められた食料品を東京市芝区（現在の港区）の虎ノ門金刀比羅宮境内に設けられた罹災者救護所に運び込みました。食料品は、じゃがいも・さつまいも・かぼちゃ・米・麦などの農産物が中心でした。

災害救護に当たっては、住民同士の助け合い、ボランティアによる支援が大きな役割を果たしたことが知られています。

